

再 評 価 書

事業名	御浜地区海岸高潮対策事業	事業区分	海岸事業	室名	港湾・海岸室
事業概要	工期	S62年～H31年	全体事業費	7,754 百万円 (負担率: 国 1/2 : 県 1/2)	
	(下段: 前回)	S62年～H21年	(下段: 前回)	7,732 百万円 (負担率: 国 1/2 : 県 1/2)	

事業目的及び内容

当海岸は、太平洋の荒波が直接来襲するため日常においても波浪が激しく、過去に伊勢湾台風、第2室戸台風等により背後地の道路、人家が甚大な被害を受けてきました。

また、近年、全国的に問題となっている海岸侵食を受け、浜幅が減少化の傾向にあります。このため、海浜による自然の消波機能が失われることにより、海岸背後地の安全度は年々低下している状況です。

さらに当海岸は、約 20km ある七里御浜海岸の中でも人家が連担している地域であることから、海岸背後地の一刻も早い安全度の向上が望まれています。

そのため、来襲波浪を強制的に減衰させ、侵食化傾向にある海浜を安定させる目的で、景観面にも配慮した人工リーフの整備を全体事業費は約 77 億 5 千万円で、昭和 62 年度より着手し、平成 31 年度の完了を目指し整備を推進しています。

事業主体の再評価結果

1 再評価を行った理由

平成 15 年の再評価実施後、一定期間が経過したことから、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条に基づき、再評価を行いました。

2 事業の進捗状況と今後の見込み

2-1 事業の進捗状況

全体計画の人工リーフ 5 基 (1,000m) のうち、3.6 基 (714m) が完成しています。

全体事業費約 77 億 5 千万円に対して、約 63 億 4 千万円が施工済みで、進捗率は 81.8%となります。

工種	全体計画				全体事業費 (単位: 千円)	施工済額 (単位: 千円)	残事業費 (単位: 千円)	進捗率 (%)
	全体		整備済					
人工リーフ	1,000	m	714	m	(7,732,000)	6,340,770	1,413,230	81.8%
	5	基	3.6	基	7,754,000			

上段 () : 前回再評価時点 (H15)

下段 : 今回再評価時点 (H20)

2-2 今後の見込み

近年の財政状況が厳しい中においても、早期完成を目指し当地区については重点的に投資を行い、事業を推進してきました。今後も依然として厳しい財政事情は続きますが、平成 31 年度の完成を目指して引き続き事業を推進していきます。

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

当地区は、21世紀に残すべき日本の美しい浜辺として「日本の渚百選」にも選ばれた七里御浜海岸の中央部に位置しています。しかし、近年の海岸侵食により、豊かな自然環境も失いつつあるだけでなく、沿岸部の安全度も年々低下しています。また、昨今の地球温暖化に伴う台風の大型化などにより、各地に甚大な被害をもたらしていることから、当地区における人工リーフの必要性及びその整備促進を求める気運はより一層高まっています。

また、当海岸を含む七里御浜海岸は平成16年7月に熊野古道の「浜街道」として世界遺産に登録され、文化財保護の観点からも、豊かな海浜の保全が必要となっています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

海岸名	便益 (B)	費用 (C)	B/C	備考
御浜地区海岸	197.72 億円	109.52 億円	1.81	

{ 平成15年度 B/C=2.08 (B=203.50億円、C=97.82億円) }

前回の再評価時点と比較するとB/Cが減少しています。これは平成16年度に「海岸事業の費用便益分析指針」が改訂され、公共土木施設・公共事業等被害額の算定比率が見直しされたことが原因となっています。

4-2 地元意向

自然の消波機能を持つ海浜が消失し、海岸背後地の安全度が年々低下している状況に対して地元は危機感を持っています。また、当地区の海岸背後地は、人家が密集しており重要な幹線道路(国道42号)やJR紀勢本線(阿田和駅)、公共施設(阿田和保育園、阿田和小学校、中央公民館)があり、「御浜町地域防災計画」における避難所(農業団地センター)もあります。これらのことから海岸保全の必要性は高く、人工リーフの早急な整備が望まれています。

また、熊野市、御浜町、紀宝町からなる七里御浜海岸侵食対策連絡協議会により、侵食対策事業の推進に向けた要望活動が国に対して毎年2回実施されております。

5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

当海岸は汀線付近から沖合にかけて水深が急激に深くなっていることから、通常採用している単断面の人工リーフとした場合には断面が大きくなって不経済となります。このため、複断面の人工リーフを採用し、必要となる被覆ブロックや捨石量を極力抑えることで、コスト削減を図っています。

5-2 代替案

当海岸は吉野熊野国立公園内にあることから、自然景観に配慮した整備を行う必要があり、海面上に突出した離岸堤のような人工構造物を築造することは好ましくありません。海浜を安定させるため、沖合で来襲波浪を減衰させる工法で海面上に施設が現れないものとしては、人工リーフしかないのが実状です。現時点においては、当計画が妥当であると判断しています。

再評価の経緯

当事業に関して、平成15年度に実施した再評価委員会の答申並びにそれに対する対応状況は以下のとおりです。

【答申】

七里御浜海岸の保全は、海浜の砂収支の観点から流域の総合土砂管理の概念が重要である。したがって、七里御浜を核として各事業は総合的な計画との関連づけを持つこと。

【対応】

現在、熊野川からの供給土砂量の増加手法についての検討を行っているところです。この検討結果を基に、今後、総合土砂管理計画の構築に向けた関係機関との調整を実施していく予定です。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。